

## 平成28年度第3回「デザイン都市・神戸」創造会議

日 時 2017年3月21日（火）

15:30～17:30

場 所 神戸商工貿易センター24階ステラコート

○齊木議長 本年度第3回目の創造会議をこれから開催させていただきます。今年も創造会議の議長を務めております、神戸芸術工科大学の学長の齊木でございます。よろしくお願いたします。（拍手）

創造会議は、平成26年度にスタートいたしまして、今年度が28年度となります。1期目は創造をテーマにどのような提案できるかということでスタートいたしました。

そして、いよいよ実践が始まります。この実践が、私たちの次のステップになります。これを今日も記録します。その実践の向こうにあるのが新しい神戸の価値をいかに引き出す事と考えております。皆さんから準備いただいた、7つのテーマの横糸が今動いています。それに、シビックプライドのお話と、“078”のプロジェクトが今動いており、そのことを縦糸に組んでいきたいと思っております。

きょうのお話のもう一つに、シェアリングエコノミーという話をさせていただきます。言ってみれば、7つの3年かけて動いてきた横糸に対して、縦糸が3つ加わって、それらのクロスポイントに私たちの新しい価値創造を目指していきたいと考えております。

それでは、初めに本日の委員の方々の紹介をさせていただきます。

皆さんの左手からご紹介いたします。

網本様です。NPO法人神戸デザイン協会の理事長を務めていらっしゃいます。

槻橋さんです。ティーハウス建築設計事務所をこのKIITOに置き、神戸大学の准教授でいらっしゃいます。

服部さんはgrafの代表でいらっしゃいます。デザイナーとして仕事をされてます。  
続きまして、福井さんは、株式会社プラスリジョンの代表取締役でいらっしゃいます。

そして、私の隣にいる福岡さんです。神戸電子専門学校の校長でいらっしゃいます。

そして、三上さんはゲストハウス ユメノマドの女将さんでいらっしゃいます。

次の山下さんは一級建築士でいらっしゃいますが、流通科学大学の准教授、下町レトロに首っ丈の会の隊長さんでいらっしゃいます。

横山さんは、SRCグループ会長兼兵庫エフエム放送株式会社代表取締役社長でいらっしゃいます。

脇浜さんは、京都産業大学現代社会学部の現代社会学科教授に、今年の4月に就任されます。よろしくお願ひします。

それでは、早速お話に入っていきたいと思います。平成28年4月20日の第1回目から3カ月後の7月16日に、第2回目を展開しました。今日この中には、第2回目の100名のクリエイターのメンバーとして参加していただいた方々もおいでだと思ひますが、100名のこういった方が集まっていたいて、そこで7つのテーマが練り上げられました。そして、その後8カ月かけて7つのテーマがそれぞれ動き、今活動中です。今日は、この7つのテーマを横糸で1本ずつ紹介をしていただきます。ただしこの紹介は時間を集約して使いたいと、できるだけ皆さんのディスカッションの時間をとりたいたいということで、事務局の藤岡さんに準備していただきました。そのお話しをいただいた後に、補足部分とか質問、必要なものはまた各メンバーから追加をしていただくことにしたいと思ひます。なお、この会議の内容につきましては、記録をさせていただきます。そして後日、議事録がホームページで公開されますので、委員の皆様にも了解いただきたいと思ひますし、会場から発言があった際はそれも記録に残していきたいと思ひますので、これをご了解いただきたいと思ひます。

はい、それでは藤岡さんお願いします。

○藤岡 よろしく申し上げます。デザイン都市推進担当の藤岡でございます。

私のほうからかいつまんで簡単に御説明させていただきます。

昨年の7月16日に、ここK I I T O 1階に100名以上の参加者が集まって、7つのテーマで討議をしました。簡単にそれらの取り組みについて説明させていただきます。

これが7つのテーマでございます。この順番で御説明させていただきます。

まず、「自転車のまちKOBEを創造する」ということでございます。このテーマにつきましては、網本委員がリーダーになりました。この7月16日の会議をきっかけに、これに参加頂いたメンバーを中心に、神戸と自転車を愛する方々によって、「CHARiN-KOBE」というグループが生まれました。この「CHARiN-KOBE」というグループでは、これまで知らなかった神戸のまちなかの自転車ルートの魅力発見であるとか、歩行者と自転車とが気持ちよく共存するための自転車走行であるとか、そういったことをテーマに議論し、「人と自転車が共存するまち神戸」を推進するために活動を行いました。具体的に言いますと、7月以降にこのメンバーの交流会、定期的なミーティングをされまして、あるいは神戸市役所の自転車施策と関連している部署との意見交換会なども実施されておられます。この写真なんですけど、ポタリングですかね、自転車で散歩的にまちをじっくりとサイクリングする。11月12日に大体40名ほどで3つのコースに分かれて、ポタリングをされています。

で、この3月12日なんですけど、NPO法人神戸デザイン協会と協力し合って、「人と自転車が共存するまち」をテーマにフォーラムを開催されておられます。このフォーラムでは、自転車活用の取り組みに関する他団体の方の講演であるとか、自転車のマナー・ルールとかに関するパネルディスカッションを行われました。グループには約50名ぐらい参加されて、熱心にご協力をいただいております。

こういった取り組みを通じまして、神戸らしい思いやりのある自転車マナー、神戸マナーをつくることを目指しまして、今後も継続をされていくようでございます。

デザインの力によって、自転車と歩行者、自動車がお互いに思いやり共存するまち、「自転車のまち神戸」の実現に向けて取り組んでおられます。これが今の進捗状況でございます。

続きまして、「創造的人材・起業家を育成する」ということで、これは横山委員が提案、取り組まれているもので、これは、大学生等を対象に、創造的発想力、クリエイティブマインドの醸成を図る、人材育成のためのカリキュラムをつくっていかうということでございます。これは、どういうプログラムが望ましいかということで、7月16日に議論頂いたものでございます。これも、横山委員の提案をテーマに、ブラッシュアップを図っております。その結果、来年度29年度の予算事業として、市役所のオープンイノベーション関連部署などと一緒にスタートアップ事業というのをやっているのですが、このスタートアップの拡大を目的として、市内大学生を対象にして起業家マインドを醸成するプログラムを実施します。具体的に言いますと、市内の大学と連携しまして、新たなアイデアを生み出した方々、起業家、著名人、こういった方々を講師に招きまして、講義とかワークショップを行う予定でございます。具体的な企画を練ってる最中でございます。最終的には、このカリキュラムに参加した学生さんにシリコンバレーにいていただきまして、現地の起業家との交流を通じて起業家マインドを身につけるプログラムを実施する予定でございます。

このテーマとはちょっとずれるかもしれませんが、3月2日に、横山委員が代表を務められているSRCグループと神戸市が起業家支援及びオープンガバメント推進にかかる連携協定を締結しております。先ほどの起業家マインド醸成プログラムをはじめとしてSRCグループと連携しながらイノベーションを起こし得る創造的人材の育成支援を行っていきたいと考えております。この目的は何かといいますと、起業家を含めクリエイティブな若手人材を育成するためのコミュニティーを形成するということでございます。このあたりまた横山委員に補足意見を後ほどいただきたいと思っております。

次に、「ワカモノの都市－若者が成長できるまち－」ということで、これは槻橋さんの論文のテーマになります。こちらでも会議後、槻橋先生のゼミの学生さん、神戸大学の学生を中心に、連携を図っております。商店街の中の空き家などを活用して若者の活動拠点の整備を研究したものです。これは、いろいろ事例があるのですが、例えば、ニューヨークのSOHO地区が若いアーティストたちによって現在の高級住宅街としてのブランドが生み出されたように、都心の一角に若者の皆さんが成長する場を集中化するという、多様な人々と出会い繋がる場作りとして、都心を積極的に再生するというところにあると思います。

こういったことで、神戸の次世代を担う若者達が挑戦していけるというふうを考えておまして、そんな場を、都心の一角を実験的に活用できないかということをはかっています。

この写真なんですが、これが先生が関わっていらっしゃる三宮センター街のプロジェクトでございます。都市部にこういう若い人たちがたくさん集まってくるという仕掛けとして、先ほどの拠点整備の話があります。

後ほど、槻橋先生からもご説明があります。

この「ワカモノの活動拠点」なんですが、4月以降に対象となる地区を選定しまして、現地調査とヒアリング、地域でのワークショップなどを重ねて、拠点となる対象物件を探していきたいというふうにおられます。若者相互あるいは周辺の地域の人々と連鎖反応を起こして、都心に新しい活力を与えるインキュベーションスペースになることが期待されております。

「農と福祉の社会課題を解決する産官学連携」ということで、こちらのほうは、福井祐実子委員が提案されたものでございます。まず、福祉についてですが、7月16日に議論があったんですが、福祉に関しましては、実を言いますと市のほうでも障害者政策で抱えている課題がありまして、「障害者の短時間雇用創出に向けた懇話会」といわれる会議を立ち上げて、福井委員にこの委員をお引き受け頂いています。この

懇話会は障害者の方の週20時間未満の短時間雇用の導入促進にむけて、企業とのタイアップとか、市役所関係機関と連携した仕組みづくり、学識経験者、障害者福祉団体とか企業関係者と意見交換を行っております。このテーマにつきまして、来年度以降も、具体的な取り組みを進めていきたいと思っております。こういったところを福井委員の知見を活用しながらこの取り組みを続けていきたいと思っております。これは福祉の問題ですね。

農の分野でございますが、農のほうは、会議に参加したメンバーを中心に、委員とか事業者、そして大学、具体的には流通科学大学ですが、ここと市の関係部署がワークショップを何回か実施しております。農業を職業として選択する仕組み、あるいはクラウド農業の位置づけについて、議論を重ねています。具体的には、神戸オーガニックヴィレッジ構想、有機農業をコンセプトに、学生と農業インターンシップの実現、消費者の学びの場となるような取り組みを考えまして、西区内の農場をつかって実践を来年度以降やろうと参加者の主体的な動きがあります。具体的には、来年度農業者の方々と流通科学大学と共同で、大学生が実際の農場で生産、加工、販売までを学べるカリキュラムを構築する実験に着手する予定でございます。

次に、これは脇浜委員のテーマでございますけど、「映像メディアによるリアルタイム情報発信」でございます。もともとこのテーマにつきまして、課題として、神戸に不足している映像メディアをどう育成するかということがあります。この中で、地域情報に特化した形のプログラムをライブ配信するということで、地域情報共有化の活性化としてネットを使った放送をベースにしたメディアセンターの開設を最終的に目指すということです。まずは地域限定的に、イベントを三宮都心部、東遊園地などでのいろいろイベント、例えばファーマーズマーケットであるとか、こういったことを発信することを実験的にやってみようという話であります。

これにつきましては、また後ほど福岡委員から説明があるんですが、クロスメディアイベント“078（ゼロ・ナナ・ハチ）”で、実験的に動くことができないかという

ことで、今協議、検討を重ねているところでございます。地上波放送局と一緒に  
なつて検討をすすめており、脇浜委員を中心に協議、検討を進めているところでござい  
ます。

次に「デザイン都市と瀬戸内海」ということで、こちら服部委員のテーマでござ  
います。こちらも7月16日に非常に皆さん熱心な議論を行いました。さらに議論を深  
めまして、瀬戸内のクリエイターの方々に神戸に来ていただきまして、その交流の中  
で、何か新たなものが生まれてくるという取り組みをできないかということで、具体  
的に今年の秋ごろ、瀬戸内の各エリア、岡山とか広島とか山口とか、そういった地域  
あるいは周辺エリアからデザイナー、クリエイターの方々を招いて、フォーラムを開  
催しようと思ひます。「瀬戸内経済文化圏サミット」と称してはありますが、こういふ  
ことの開催を予定しております。このサミットで、交流会をやつていきたいといふふう  
に考へております。将来的には、神戸が瀬戸内海のクリエイターのハブ、拠点となる  
ように目指してまいりたいといふことでござひます。

最後に「空間×人」ということで、山下委員のテーマでござひます。このテーマに  
つきましては、会議後、山下委員が中心になりまして、何回かワークショップ等の活  
動を行つてはいます。実際に、次の写真ですが、これは兵庫区の、民家を活用した喫茶  
店ですけども、こういふところでワークショップをされてはいます。いろいろな  
方々がこのワークショップに参加しておられまして、その中で、これは和田岬にある  
実際の空き空間ですが、ここを実験場として実験されてはいます。昨年の12月以降、  
様々な実験利用が行われてはいます。例えば、大学生と留学生の交流会の開催だとか、  
いろいろなパーティーが開催されてはいます。こちらの目指すべきところといふのが空間  
をどう所有者と利用者の両者をマッチングしていくかといふことで、後ほど山下委員  
から発表いただきたいと思つてはいます。

最終的に実験結果とか、こういふさまざまな取り組みを通じて、ネットで何か  
しら仕組みができないかと考へてはおり、現実世界と結び付けたシステムを作つていき

たいと考えています。場所は、長田、兵庫の市街地西部エリアを中心に考える予定でございます。取り組みは、空き空間の新たな価値を創出することが目的で、それによってまち全体を活性化するというところを目指しているものであります。

簡単なお説明となりましたが、以上でございます。

○齊木議長　　ありがとうございました。

今お話しいただいたのは、8カ月かけて展開されていた横糸です。ここに今から、3つの縦糸が入ってきます。まず、福岡委員、お願いします。「若者に選ばれるまち」という、それを見えるようにしましょうということで、クロスメディアイベント“078”を今準備しています。後2カ月ですが、よろしくお願いします。

○福岡委員　　お時間5分とのことですが、スライド30枚ぐらいつくってしまいました。(笑)

“078”というタイトル。ここにお集まりの皆さんには、これは一体何のナンバーなんだっていう方はおられないと思います。神戸を代表するナンバーですが、そこに大して深い意味合いがあるわけではないです。これから起こる新しいことの単に符号として捉えてください。音楽・映画・ITを掛け合わせたクロスメディアイベントが開催されます。都市生活をおもしろくする、心地よくする、そういった都市の中で楽しむメディアということにスポットを当てた領域がクロスするイベントです。先行するものとしては、SXSW（サウスバイサウスウエスト）というテキサスのオースティンでひらかれているイベントがあります。昨日ここから帰ってきたばかりなのですが、市の職員さんも去年視察にいかれています。SXSWの方は映画、音楽、インタラクティブを掲げていますが、インタラクティブは広義に解釈してのITです。先方はB to B、言わば3領域における世界中のプロフェッショナルの交流の場になります。我々は同じもの目指すわけではなく、音楽・映画・ファッション・食に、今の社会変化の根源、都市生活そのものの大変化を加速させていると言っても過言ではないITを掛け合わせて、ライブとカンファレンスとトレードショー（見本市）という3つの機能でもって、



実験的、国際的な集約点を創出していこうと思っています。都市生活をおもしろく、その心地よさを追求する市民とクリエイターとエンジニアが集い、交流することで、つくり上げる参加型のフェスティバルとしています。市民、クリエイター、エンジニアを横並びにするには、ちょっと距離感あるような感じがあるかもしれませんが、もうこれからの社会変革時代においては、誰でもクリエイター、誰でもエンジニア、しかもクリエイティブエンジニア、それをみんなが目指せるという時代にならなければならない。そういった時代を反映したフェスティバルになるのではないかと考えています。

これをご覧ください。神戸が魅力・活力あふれる都市として発展していくためには、「多様」な人々が「共創」によるまちづくりが必要であるとしています。共創というキーワード、コクリエーション、コワーキングという方が通りがいいかもしれませんが。ちょっと前に大阪大学が全学を挙げてこの共創に我々向かいますと新聞の全面広告を出していましたね。もうこれからの時代、音楽だけのフェスティバルや、ITだけでものを考えていても新しいものは生まれません。いろいろな分野、いろいろな価値観の人たちが集まって、共に一つのものをつくるということが価値がある。これが21世紀最重要となるキーワードなのかなと思います、神戸はそれが溢れる場になればいいなと思います。進取の気風があふれるまち、昔から港町として言われているわけですが、その「進取」、何を進んで取るのか、どこに向かうのか（トルツメ）を再度セットする必要があるんじゃないかと実行委委員一同考えています。そこで思い浮かんだのは“実験”という言葉。創造会議の初年度から、いわゆる答えがない時代に答えを出していかないといけない、あらゆることを出来ることから実験していくしかほか方法は無いのでは無いかと皆で合意しつつあったものを譲り受け、メインコンセプトを「実験都市」としました。そしてサブコンセプトを「TECH×生活」としました。「TECH×生活」。特に日本だとホームオートメーションのセンサー見本市みたいなイメージになっちゃうかもしれませんが、決してそうでない。市民生活のソフトオブソ

フトをデザインのテーマにしたものになります。期間としては、5月6、7日で、場所としては、このデザイン・クリエイティブセンター神戸とみなとのもり公園と東遊園地です。それからポートアイランドのロックフェスバル「COMIN' KOBE 2017」とタイアップし、4会場をつなげて展開いたします。

だーっと飛ばして、2つ紹介させてください。カンファレンスの例として水口哲也さん、もともとはゲームデザイナーです。「セガラリー」等の3次元画像ゲームを創り、音楽とゲームを掛け合わせた新しいゲーム領域を開拓し、はたまたゲーミフィケーション、実世界の中にゲーム性をどう取り入れていくかといったことのオーソリテイであります。マイケル・ジャクソンが、おまえのゲームはおもしろい、その中に俺を出させてくれとわざわざ飛行機に乗って頼みにきたという逸話の持ち主です。そんな方が今、国や東京都から、2020年以降の東京都市デザインの担い手として石を置かれています。「これからの社会変革時代の都市デザイン」をテーマにご講演頂きます。

ちょっと飛んで、みなとのもり公園での音楽ステージのアーティストですが、左は石野卓球さん、電気グルーヴというテクノバンド、相方はピエール瀧さん俳優として有名ですね。テクノDJになります。その隣がtofubeats。神戸出身、電子音楽の若手では今やスーパースターですが神戸在住、神戸にこだわって活動しておられます。次にSUDO。神戸出身の兄弟なんですけど、今はベルリンに居を移して活動されています。多分ほとんどの方はテクノ知らないと思うんですが、全世界でヘビープレイされるテクノのダンスミュージックをつくっておられる方です。今ヨーロッパでは先進的なムーブメントとしてテクノ×日本酒が非常に人気があります。神戸は世界一の酒どころですので、これを紹介しない手はないなということで今回については、テクノを夜にフィーチャーさせていただきました。

駆け足でこの078どう伝わったのかどうかということとは本当に心配なところではありますけれども、神戸で何かが起こる。5月6日、7日です。皆さんぜひ手帳にマーキングしていただいて、いろんなカンファレンスやライブ等、いろんな出会いが

あると思いますので、これからの楽しい共創生活に向けた何かのきっかけとして注目していただければ幸いです。

以上です。ありがとうございました。(拍手)

○齊木議長 はい、ありがとうございました。

ではもう1本の縦糸を通しましょう。

次は、「シビックプライドの醸成について」ということで、この創造会議のメンバー槻橋委員と横山委員と一緒に展開されています。ここで槻橋さんのほうからお話をいただきましょう

よろしくをお願いします。

○槻橋委員 槻橋です。よろしくをお願いします。

昨年の10月からシビックプライド分科会ということで、5回の分科会を行ってまいりました。テーマとしましては、「BE KOBE」という震災20年で出されたキーワードをシビックプライドのキーワードとして、今後未来志向でいかに発展させていくかということテーマにしてまいりました。分科会の目的というところに書いてます。

分科会のメンバーは、私と横山委員とそのほかにごらんのようなメンバーでやっております。なるべく、より広げる側の戦略をいろいろお持ちの皆さんに集まってもらいました。

で、5回のディスカッションの中の第2回目にシビックプライド研究会ということで、シビックプライドという書籍を出されて世界中のシビックプライドの取り組みを研究されている紫牟田さん、それから伊藤香さんにお越しいただき、シビックプライドのいろいろな秘訣とか、そういうものを伺う機会がありました。また、「BE KOBE」の現在のステートメントの作者でいらっしゃる岡本欣也さんともディスカッションさせていただき、どのようなものを「BE KOBE」の言葉として今後受け継いでいくかということについてのアドバイスをちょうだいしました。

議論の要旨はちょっと飛ばしますけれども、プロモーションの方向性として

は、この29年度は、神戸開港150年という非常に重要な機会でございますので、29年度以降、震災から始まったキーワードではあるけれども、震災にかかわらず神戸で活躍している若者を中心に、その活動を紹介していったり、あるいは、いろいろな部局で利活用をしてもらうように、プロモーションを継続していくということでございます。

第一弾としましては、開港150年の記念の「BE KOBE」のモニュメントが4月にメリケンパークのリニューアルに合わせて設置される予定でございます。そこに、この「BE KOBE」のシビックプライドとしての、より広くそういった紹介みたいなものを銘板として設置することになりました。これは、銘板の設置のイメージになります。

「BE KOBE」の銘板の内容を簡単にご紹介いたします。これは、市長にも一部調整いただいたもので、神戸市が発信する「BE KOBE」への思いというものでございます。

『BE KOBEは、阪神・淡路大震災から20年目の2015年、「人のために力を尽くす」という市民の熱い想いを集めて生まれたメッセージです。

「市民が神戸市民であることを誇りに思う気持ち」を表しています。

先進的で開放的、さらには豊かな創造性と国際性に富んだ、みなとまち。

“神戸らしさ”を育みながら大きな苦難を乗り越えてきた「これまでの150年」から、若者が挑戦し生き活きと活躍する「これからの150年」に向けて、神戸は出航します。』

という、「神戸開港150年記念 2017年4月神戸市」という形で銘板を設置することになりました。

それで、今後、その次の企画としましては、新たなプロモーションを進めていくわけですが、まず現在の特設サイトを新しいバージョンにリニューアルいたしまして、「BE KOBE」の起源、そしてこれから市が目指す方向について伝えたいということです。

それから、これはやはり市のいろんな各部局で「BE KOBE」について積極的にシビックプライドとして使っていってもらおうということで、庁内の若手職員の皆さんともプロジェクトチームをつくったりしながら、各局への活用促進、サイトの充実を目指していくということでございます。

それから、民間企業でも「BE KOBE」を積極的に利活用してもらうための働きかけも行っていくということがあげられました。現時点で、事例としましては、INAC神戸さんがユニフォームに「BE KOBE」というロゴをつけていただいています。そういったスポーツの場面とか、いろいろ若い人たちの積極的な活躍を支援するために「BE KOBE」が活用されるような形でシビックプライドの醸成に寄与していければというふうに考えております。

目標は必要だろうということで、2020年までに、神戸市民の「BE KOBE」の認知度10%以上というふうに、これを目標として掲げているということでございます。

以上です。(拍手)

○齊木議長 ありがとうございます。

ということで、「BE KOBE」、シビックプライドの醸成を、いかに展開するか。その中で「BE KOBE」がスタートしたということでした。

先ほどのクロスメディアイベント“078”という神戸の実際のいろいろな企画が動いている。それに対して、先ほどの7つの横糸が、説明されました。これについて各委員のメンバーが、少し追加をしていただきたいと思います。できれば、他の横糸との連携であるとか、今具体的に動こうとしている“078”の企画との連携であるとか、「BE KOBE」についても少し触れていただけたらと思います。

それでは先ほど紹介した順番からまいりましょうか。

まずは、網本さんからお願いします。

○網本委員 私のほうは、「自転車のまちKOBE」というテーマなんですけども、今回「CHARiN-KOBE」というチームが立ち上がったときは、いろいろ課題が見えてきま

した。一番最初の創造会議でもしゃべらせていただいたんですけども、神戸のまちを自転車で移動するというのは非常に便利です。かなり最近のコベリンの稼働率が高いとお聞きしています。私もいろんなまちにあって、この前も鹿児島に日帰りで行ってきたんですけども、1時間で神戸空港からいけるのでね。行って降り立ったらすぐに自転車があることに気がつきました。簡単に借りられるんですね。自転車を借りると行動範囲がぐんと広がった。で、日帰りでも鹿児島から帰ったという、こんな便利な自転車の使い方をしました。

で、今回ですね、“078”という大きなイベントでございますけれども、かなりの人が来ると思うんですね。もちろん、みなとのもり公園、東遊園地っていう便利なところなんで、公共交通機関で来る人がほとんどだと思えるんですけども、実は地元神戸の人たちもやっぱり見に行きたいと、自転車で来る人も多いかもしれません。そのときの、例えば駐輪場の問題とか、そのあたりも考えていかないと、我々例えば神戸で自転車に乗り、例えば居留地で、居留地に乗っていったとき、どこにとめたらいいのか。実は歩道にとめるのは原則禁止されてるんですね。このあたりも、神戸に自転車でくるとき、イベントをやる時なんか、必ず考えていただいて、何かデザインで解決できることがないかなというふうに思います。

○齊木議長　　ありがとうございます。

まずは便利であると。身近な自転車を色んな人たちに使って欲しいと。そして今回は、外から皆自転車でやってきてくれる人たちがいるんですね。新しい瀬戸内海の島々からやってくるとか、他の都市からやってくるとも、いってみれば社会実験の一つのチャンスになると理解させていただきました。ありがとうございます。

槻橋さんお願いします。

○槻橋委員　　「ワカモノの都市」ということで、若者の活動拠点という、まあスタートは抽象的にスタートしたんですが、いろいろ話し合いをしていく中で、やっぱり例えばこのKITOとか、今日追加でお配りしたお知らせですね、これは三宮セン

ター街1丁目さんに協力してやっているところ、実は神戸芸術工科大の学生発案でですね、この三Fストリートという、今ジュンク堂さんのあるビルの3階のデッキ部分の道路上なんですけど、そこに休憩スペースや共同貸しスペースとして今ちょうど設営中でございます。非常にいい空間ができていて、あさって、これはオープニング、それ以降は調節しながら実験的に常設して、そこでいろいろなイベントやカフェ利用みたいなものを進めていこうという形でございます。

つまり、申し上げたいのは、若者はこうしていろいろな場面で活動する、活躍して本当に強い力になり得るといふことがあるんですね。それを今、若者都市のプロジェクトでは、都心に近いところで彼らの場所、彼らが顔となって地域に何か若々しい変化を及ぼすような場所をつくっていきたいというふうに思います。

メルボルンに最近行ったのですが、プレイスメイキングという概念、非常に創造的な都市づくりにおいて大事な、プレイスメイキングという言葉が市も州政府も非常に大事にしていて、何か若者を核にしたプレイスメイキングを神戸の都心でやっていきたいというふうに考えています。なかなか場所とか地域とか調整があって、今回まだご報告できてない部分がありますが、温めておりますので、できれば次年度とか少し見えるような形になるのかと思っております。

○齊木議長　ありがとうございます。

今まで、拠点の話は建物とか、あるつくられたスペースだったんですが、今日の話では、外空間なんですね。通りであるとか、内と外をつなぐちょうど中間のところというのは、まさにプレイスメイキングだと。魅力を、発揮してくるんですね。ありがとうございます。

それでは、続きまして服部さんお願いします。

○服部委員　今プレゼンテーションであったんですけども、11月に開催する予定で、各瀬戸内経済文化圏のメンバーに声をかけております。この瀬戸内経済文化圏、神戸市で開催できるようになりそうなんですけれども、そもそも瀬戸内、今入っているの

は10県、今のところ、大分、山口、広島、岡山、兵庫、大阪、和歌山、徳島、香川、愛媛、この10県のメンバーが一堂に11月にそろろうというふうになります。構成メンバーがどういう形なのかというと、大分県なんかで説明しますと、別府のアートフェスをやってます山出さんという方がいらっしゃるんですけども、彼とも先週ミーティングしてきました、こちらのほうに参加してくれることになっています。そういうプロデューサーとかディレクターとかいう立場の人間から、30代真ん中ぐらいで、地域で頑張っているデザイナーたちも、呼び寄せようということで、10県から入ってきてくれます。

なぜこの瀬戸内経済文化圏というネーミングでスタートしようとしているかというと、既にローカルで頑張っている生産者の方たちが、例えば、徳島の生産者の人たちが神戸の人たちにパッケージのデザインをお願いしてるとか、愛媛のミカン農家の人たちが岡山の人たちに、ミカンジュースをつくるレシピをお願いしたりとかというように、瀬戸内を一つの交流のポイントとしながら、ネットワークを組んでいってるといのが見受けられます。これを、今まさにこの時代にパッケージしてしまっ、はたから見たときに、ああ瀬戸内圏ってこういう動きをとってるんだなと、こういう生活をしながらこういう経済回してるんだなというのが外側から見ていただけるような地域を今からスタートしていくべきなんじゃないかというところで、神戸でこれから11月、ぜひ皆さんきてください。これ若者たちだけではなくて、経済同友会の方たちも注目している、どのように大人たちが支援していくかっていう部分も何か一方で議論できたらいいなというふうに思っています。

○齊木議長　　ありがとうございます。

11月に期待しております。瀬戸内の、言ってみれば最新情報や多様性という人とのつながりが一気にそこで湧きあがってくるんじゃないかなと期待しております。

それでは、続きまして福井さんお願いします。

○福井委員　　私たちは、農と福祉の社会課題を、産官学連携で解決するというテー



マを参加者で話し合いました。まず、なぜそのテーマを話し合うことになったかお話ししますと、神戸市では人口減少の課題に直面し、若者に選ばれるまちにしようというビジョンが掲げられています。若い人たちは今、社会課題、またその解決に大きな関心をもっています。農と福祉の分野というのは、実は社会課題が山積のフィールドです。課題は複数あり複合的でありますので、一気に解決できませんが、そのフィールドを題材に使って社会課題を一つ一つ解決できたらいいな、解決する仕組みができたらいいな、その糸口を参加者とともに探っていけたらいいなと思いました。

クリエイター会議では、農と福祉のテーブルに思いのほか多数の多様な方々が集まってくくださったので、本当は農と福祉を融合することに意味があるんですけども、今回はまずテーブルを分けてディスカッションすることにしました。

福祉のほうは、神戸市では障害のある人の就労が大きな課題です。クリエイター会議後に、神戸市保健福祉局障害福祉部が「障害者の短時間雇用創出に向けた懇話会」を新設してくれ、産官学多様なメンバーでディスカッションがすすむようになりました。今後は農も含め多様な職域で障害のある人の就労の場を具体的につくってことになるとおもわれます。

農のほうは、持続可能な農のあり方というのを、農家さん中心に真剣に考えていただく中で、農業の担い手不足が重要なキーワードにあがりました。農にまつわる課題はたくさんあるのですが、そのうちのひとつとして、新規就農の受け皿の仕組みをつくりたいという強い気持ちをお持ちの神戸市西区の有機農家さんが参加されていました。世界では今オーガニック3.0と申しまして、国連のSDG's（持続可能な開発目標）と同じように、農業からバリューチェーンまで、持続可能なベストプラクティスの実践とそのガイドラインが整理されているとても大事な時期です。今、世界各国で5分野20項目の、ベストプラクティスが整理されているんですけども、その中に実は福祉やテクノロジーの融合が含まれます。農業の分野で、今回の私たちのディスカッションの中から生まれた方向性とその後の活動の成果（まだスタートですが）としては、神戸

市西区の農家さんが「オーガニックヴィレッジ構想」をまとめ、実験畑「オーガニックヴィレッジ」を整備してくださったことです。そこでは、大学に若者の学びの場としての実験フィールドとして活用していただきながら、社会課題を解決するサイクルを実践していくことになりました。そして、大学生のインターンシップを通じて、一つの職業選択として、農を選んでいただけるようになったらいいなど、農家になるだけじゃなく、生産・加工・流通というバリューチェーン（国が推進しているいわゆる6次産業化）の中で、農の職業というのをとらえていってもらえればいいなと思います。つまり、生産だけじゃなくて、加工・流通の中で、職域をつくり、若者が神戸市に定着するような一つの流れの実験の場となったらいいなと思っています。そうすることで、神戸市の農にとっては、ひとつの課題である担い手不足の解決につながったらいいなと思います。地域の農家さんはじめ多様なバックグラウンドを持つ市民および産官学メンバーが協働し社会課題を解決し実践する場として今後「オーガニックヴィレッジ」が育っていくことを応援したいと思います。どうぞみなさまも応援のほどよろしくお願い申し上げます。

○齊木議長　　ありがとうございます。

今、今回のテーマの中で一番難しいテーマについて真っ向から扱っていらっしゃる。どうされるか、あえて2つを分けて、それぞれの中で、今度はどこで誰がやったかということが大変大きな課題だと思いますから、土地が見つかったらですね、そしてそこへ参加する若者も見つかったんですね。そこに単に今度は農だけでなく、福祉などほかの要素もそこへジョイントしようとしてるわけですね。

わかりました。ようやく春らしくなってきましたので、若者がフィールドで展開している姿が想像できます。ありがとうございます。

それでは、続きまして福岡さんをお願いしましょう。福岡さん、先ほどのお話に加えて、他の委員の方々の関心を持っておられるテーマと078との関係とかですね、お話いただけますか。

○福岡委員　若者の起業とかメディアについては横山さんがお話しただけだと思うので、私は先ほどの延長線上の話を少しさせてください。この委員会ももう3年目になりますよね、その間に感じたのは、デザインという言葉の定義が変わってきたんじゃないかなと。まちの景観、生き方といったところまで含めて、ソフトデザインの対象としてすごく重要になっていて、そういったことを市民が語れる時代になってきたんじゃないかと思っています。そういう意味では服部さんの、プロのデザイナーが企画するイベント、そのクオリティーというのは、本当に何かすごそうだなと。

“078”は、市民中心に思い先行で突っ走っている。いろんな分野の人がいるということはずごくいいんですけども、要件や情報の編集が得意なプロデザイナーがいるわけじゃないので、そこはこれからの課題です。前身となる神戸ITフェスティバルがどちらかというとITベンダー（提供者）側の論理で構築されていたのに対し、市民の論理でITをどんどん活用する側の視点でもってデザイナーとしても、今の時代にあったものを「×（かける）テック」で掛け合わせていこうという機運があります。本会議の中で、あらゆるビジネスやサービス、市民の生業となる部分が、もうどんどんソフト化、広義な意味でソフトウェア化していると言いつけてきました。そんな中、最近一般化しつつあるキーワードで「シンギュラリティー」というのがあります。おとしまでこの話をするのは、ちょっとはばかれるところがありました。もう普通にNHKが正月の特番として特集し地上波で放映する。人は働かない時代がくるかもしれない、20年後には50の職種が自動化されてしまいなくなる、そういった予測まで出てきたわけですね。指数関数的に技術が発達し、しかもそれが多方面の事柄とミックスされていく、そういった時代の都市生活デザインというものがどんなものなのか、それを真剣に議論していい、オープンに議論していいタイミングになってきたのだと思います。世界的にみても遅くはないタイミングですし、そういう観点まで切り込んでやれる、面白いです。学校でも教員が「社会とはこういうもんだ」と上段に構えることができなくなってきた。「いや私も分からないんだよ、一緒に見て話し合ってい

こう」という風にファシリテイトできる人が良い教員とされる時代になってきたように感じています。委員皆さんのお考えや発信を集約し、話し合っていく、それ自体が実験でありとても価値あることだと考えます。078にも皆さんのお考え、活動をぜひ取り込んでいきたいと思えます。

○齊木議長 ありがとうございます。

それでは、三上さんお願いします。

○三上委員 私は、海外のお客様とか、県外のお客様とか、そういう方に接する機会が多いというところで、旅行者というレベルではなくて、あなたの得意と、神戸滞在を交換しませんかというような形で、うちの場所を使って何かを残していってもらおうというようなことをしながら生活をしています。そこで、単発的に来られる旅行者ではなくって、長期的に神戸に住んでもらうというようなことから、生活する神戸ということを常に身近に感じながら、声を聞けたりするんですけれども、そういう声を、外から見る神戸というのを、この会議では発信していけたらいいなと、それが役割かなと思っています。生活するにはとてもポテンシャルが高いとすごく信じているので、私もその1市民としてそういうことを伝えていけるといいなと思えます。

○齊木議長 ありがとうございます。

というお話は、山下さんのほうからもございますので、お願いします。

○山下委員 こんにちは。この間の7月ですかね、夏から定期的に、あのときのメンバー、集まっていたメンバー、後は空間の所有者の方を交えたような会議を月に1回行ってきました。ちょっとこちらのダイアグラム、絵になりますが、このうちのまず一つの資源、空間、空き空間というものについて実験をしてきたんですが、まず所有者の方に入っていたかかないといけないなというふうに気づきました。といいますのが、後ほど話がありますように、シェアリングエコノミーを、例えば衰退地域と言われている地域において、実際導入するときの条件整備として、まずこの空間が、一般的な場所であればシェアリングエコノミーでやりとりができるんですが、地域の魅力

をともに伝えて、利用者の人を増やさないといけないというちょっと厳しい状況の下では、みんながこれを活用できてここでおもしろいことが起きるだろうと、地域のおもしろさも一緒に提案するような資源の発信というのが必要かなと思いました。

最初の会議では、これをサイトにして、マッチングシステムにしようと言っていたんですが、何回か会議を行ううちに、マッチングではなくってプラスアルファが何か必要なのではないかなということになりました。

今実際にある中で、こういった所有者、利用者、そしてそれをコーディネートするコーディネーターもコミュニティーができているんですが、これを、この中で実際活用することを今までしたことのない人も体験するというか、家と職場だけではなくて、もう一つの場所を自分の生活の中で活用して、自己実現するという文化をつくっていくということが必要かなということで、一人一実験みたいな形で活用しています。

ですので、このコミュニティーが、学びのコミュニティーといいますか、実践コミュニティーと名づけられるかなと思ひまして、この今現実の場にあるコミュニティーの形を実際、仮想のバーチャルな空間の中に実装させて、サイトでありコミュニティーにするのかなと思っています。AirbnbやUberのように今言われているシェアリングエコノミーのシステムは、Ruby on Railsというプログラムを使って実装しているのですが、それプラスアルファ、教育システムを入れないとイケませんので、それを実際どう実装するかというのをこれから実践コミュニティーによるハッカソンなどでやっていきたいなと思っています。

以上です。

○齊木議長　ありがとうございます。

それでは、三上さんのお話と今の話は重なってきますし、槻橋さんのお話とも重なるかと思いますが、次の横山さんの話にうつりたいと思います。

横山さんお願いします。

○横山委員　横山でございます。

起業家を育成したり、創造的人材を増やしていくということは本当に、時間のかかる話で、私自身は、10年、20年かかる、その一歩かなと思っています。数年前から神戸市さんのところでは、スタートアップオフィスなど外形的なものをつくっておられて、その中にもっともっと濃くしていくことをやっていきたいなというふうに思っていて、すごく実は地道なことをやってまして、私、神戸大学でまだ学生をやっていますので、学生のコミュニティーで起業家ゼミというのをやっています。それが最近ちょっと自立しましてね、学生が主導して起業家を育成するシステムを、今学生主体で今やっとなんて実行しています。それまでは神戸大出身の起業家が7人、8人集まって、学生を引っばっていたのが、何とかそれが今やっとなんて自立し始めた。これね、5年ぐらいかかっています、そこに到達するのに。

で、それと今年度とか来年度は、流通科学大学と神戸学院大学、近畿大学のほうで講師をさせていただくことが決まっていますので、学生とのコミュニティーをつくりながら、そういう人間をちょっと引っ張っていきたくと思っています。

で、最終的には、起業家と投資家と地元の企業と行政、で、大学、この5つがうまくかみ合って、そのコミュニティーの中に若者がぐるぐるぐるっと入る、そんな状態をつくらないと多分無理かなと思っています。

もう1点大事なのは、残念ながら日本とアメリカ・シリコンバレーを対応させていただいたりとかしたんですけど、残念ながらアメリカにはマーケットがあんまりありません、日本の起業家にとって。アジアのマーケットとか中南米、東欧、そっちのほうに向けて、神戸を拠点にして展開していくようなそんなこともできるような下地をつくっていきたくというふうに思っているのと。しゃべり出すと切りがないので、それぐらいにしときますが、地道な活動を続けていきたくと思います。

○齊木議長　ありがとうございます。

一番は恐らく学生たちが何をモチベーションにして、みずからを動かしていくか、そこをどう支援するかが大きなカギですよね。実社会の企業の方々が力になっている

ということですね。

それでは、脇浜さんお願いいたします。

○脇浜委員　はい、脇浜です。

映像メディアによる情報発信ということなんですが、齊木先生から、横糸の一つというふうに紹介されたんですが、私、実は縦糸ではないかなと思っているんです、映像メディアというのは。例えば去年まで、デザイン都市で委員の皆さんがすごくおもしろいたくさんのプロジェクトを発表されましたよね。これね、どれだけそれがメディアで取り上げられたことがあるか。取材どれだけされています？特にテレビとかで放送されたことがありますかっていうところなんですね。

で、実はやっぱり映像ってすごくパワフルなので、例えば今日 CHARiN-KOBE のポタリングですかね、初めてそういうことやったって聞いたんですよ。これ皆さん、見たくないですか？映像で。どんなふうにしたかって、みんなで自転車連ねて、どんなところをまわったのかなっていうの、やっぱり映像で見たら、こんな楽しそうなんだったら私もやってみたいなっていう人が出てくる。そうやってどんどん輪が広がっていく。

で、さっき、福井さんがね、農と福祉の話、齊木先生がくしくも学生たちがフィールドで活躍する姿がイメージできますねって言いましたけど、イメージするだけじゃなくて見せましょうよって、映像で。っていうことができていないんじゃないかなと思うんですね。でもこれを例えば神戸市でどこか既存の地上波、民放テレビさんに取り上げてくださって言いにくいと思ったら、現状サンテレビさんしかないんですね。で、サンテレビさんだって、いろいろやることある。阪神の中継もやらないといけないし、中継の、枠がそんなにたくさんあるわけじゃないんですよ。そうなるとう度、じゃ神戸の我々ができるのは、在阪の局に頼みにいくってことになります。在阪というと私が勤めていた読売テレビとか朝日放送、MBSさん、関テレさんということになりますけど、でもあちらはですね、大阪がまずありますし、京都からも滋賀

からも奈良からも和歌山からも、全部言われるわけです、取り上げてくださって。そのうちの神戸は一つの選択肢でしかないということで、ただこれが福岡市だったら、福岡市って市内に民放5局ありますよね。ですから福岡市でやっていることを取り上げる枠ってというのがふんだんにあるということなんですね。だからまず私たちが認めるべきだと思うのは、神戸市ははっきり言って「映像情報過疎地」だということです。圧倒的に過疎地です。みなさん、神戸イケてると思ってるかもしれませんが、映像情報に関しては、完全に遅れています。まずそこから認めるべきだと思っていて、ただですね、ないものをないって文句言ってもしょうがないので、今だとネットメディアがありますよね。今、フェイスブックもラインもものすごく映像に力を入れてますし、またabema TVみたいな、地上波とか放送じゃなくって、インターネットで映像を流すメディアというのはたくさん出てきてますので、そんなものを活用して、ちゃんと神戸市の私たちの映像メディアというのをもっていけたらいいなど。

で、まず第一段階として、今度“078”というイベントもありますから、それを映像として発信できるようなことをとにかく実践としてやりたい。で、その後、いろんなフォーラムとかありますので、それを映像で発信できるようなことができればなと思います。

○齊木議長　ありがとうございます。

まさに縦糸になりました。きょう宣言いただきました。

今7つのプロジェクトが動いていて、それを横糸としたときに、縦糸で今度“078”のイベントとか、それからシビックプライドとかまさに今日は、それを映像メディア、それもリアルタイムで流そうという縦糸にしようという提案、私も縦糸をイメージしています。

矢崎さん。今皆さんの活動とそれから今お考えのことで、ご意見いただけるものがありますか？もう少し後にしますか。

○矢崎さん　そうですね、やはり後にしていただけるとありがたいです。



一言だけ、きのうまでは、土、日、月と北海道でG1サミットっていうものがあり、そこへ行ってたんですけど、300人ぐらいの政官民の要人が集まってきて、500名ぐらいで会議したんですけど、極めて刺激を感じました。その中で、ここでも挙がっているワードが頻繁に出ていて。多分1年後、また集まる時にはものすごい進化していると思うんです。我々は長々と議論するだけで、実際にはなかなかしないなど自分自身も思いましたけれども、神戸市はもっと頑張らないと情報過疎地だけでなく、本当の過疎になっていく。なので、ちょっと頑張らなければいけないなというふうに思いました。

○齊木議長　　ということで、ひととおり意見いただきました。また横糸、縦糸の話で、クロスポイントにかかわる話も随分とありました。

7つのまさに創造実験が行われていると思いますし、そこにみずから主体的に動かれている方と、さらには、動く仲間をそこに巻き込んでいっちゃるということで、いろいろその話をいただきました。

ここから、もう一つ、縦糸を加えてみたいなというふうに思います。

きょうは、そのお話をいただいた後、もう少しディスカッションの時間を準備しております。

ここで5分ほど休憩に入ります。

(休憩)

○齊木議長

それでは再開いたします。

きょうは、もう1本の縦糸と申し上げましたが、環境にやさしい仕組みとしてもう4、5年前からいろんな具体的な動きがありまして、その中でシェアリングエコノミー協会の佐別当事務局長においでいただいております。佐別当さんに、私たちが今取り組んでいるテーマ、それから縦糸・横糸の補強の中で、何か新しい関係を引き出

す提案を頂きたいなというふうに思います。

それでは、シェアリングエコノミー協会の佐別当事務局長よろしく申し上げます。

○佐別当事務局長　皆さん、こんにちは。シェアリングエコノミー協会の事務局長をしています佐別当といいます。私大阪出身で大学は京都でして、17歳のときに震災にあって、神戸はまさに青春時代を送ったんですけど、ルミナリエとかデートコースなど憧れの、おしゃれなまちだったんですけども、ちょっと神戸市の志水部長という人とお話しする中で、政令指定都市でも人口減少してるというふうに聞いて、本当ショックを受けました。大阪の八尾という田舎に住んでいたんで、そういうところからすると神戸なんて、本当に憧れのまちという、そんなところが今人口減少、流出に悩んでいるとかってというのが、正直驚きでしかなくて、今僕は大学出てから十何年前東京のほうへ行って、IT企業のベンチャースタートアップに入って、そこで会社の上場をして、シェアリングエコノミー協会の事務局長しています。なので、今回、シェアってというのがどういう形で貢献できるのかなということを私も考えてみたいと思っておりますし、シェアリングエコノミーって本当にここにいる全員に影響があるかも、これから会社ってものの形が変わってきますし、働き方も変わってきますし、まちなり方も変わってきますし、社会というのが抱える課題や問題がどんどん大きくなってくる。そのときにシェアっていうガイドが非常に重要になっていくっていう、もはや資本主義とか、所有というものの概念が限界にきている。そういう中でシェアリングエコノミーというものが、エコノミーという名前がついているのすら邪魔だと思うんですが、ただ経済活動として、世界中で何兆円、何十兆円という規模に大きくなってきているので、経済としての非常にインパクトというところで、皆さんの生活自身にも関わってくるところをご紹介できるかなと思っております。

今日、前半のお話を聞かせていただいて、非常におもしろいことがある、こういうスピード感のあるお話をされているところというのは、次につながると思いますし、きょう時間40分ぐらいいただけたらと思うんですけども、私の話は20分から25分に抑

えて、質疑の時間をもちたいなと思いますので、説明はとんとんとんといきたい思っています。

その中で、自己紹介としまして、今私は3つ4つ肩書を持っています。IT企業としては17年前にガイアックスという会社にはいりまして、そこで事業開発だったり広報というのをやってきています。今はブランド推進室というところで、会社のブランディングをしながらシェアリングの事業も推進したり、後はシェアリングエコノミー協会という業界団体を1年ちょっと前に立ちあげて、その事務局長をしています。個人では、台湾人の妻と6歳の娘がいるのですけれども、家族でミライエっていう未来の家という位置づけで自宅とシェアハウス・ゲストハウスの併設をして、家族が一緒にすむ空間っていうのを、20坪ぐらいの家なんですけども運営しています。そこでは、Takakuという外国人が自宅で教える料理教室シェアサービスを使ったりとか、TABICAっていうまちあるきしたりとかガイドをしたりとか、そういうシェアサービスも活用して、シェア生活を実践しています。先週は内閣官房からシェアリングエコノミー伝導師として認定いただきまして、全国でもこういった活動を広めていくといったものもやっています。

協会の概要はちょっとおいておいて、1年前に設立してから今150社くらい、毎月10社から20社増えてきています。シェアリングエコノミーというのは、通常のビジネスと違うところは、定義としては、場所・乗り物・人・お金、こういった分野において、インターネットでのプラットフォームというものを介してマッチングする仕組み、旅館業とか車の販売とか、普通は業法というものがあって、業として、企業がサービスを提供するというものが、個人が、個人にサービスを提供する。しかも個人がサービス提供者から利用者に入れかわるということが起こり得るサービスでして、それをITのプラットフォームを介して仲介をしてやる。プラットフォーマーは、ホテルを持っていないAirbnbですとか、タクシーをもっていないUberですとかそういった形で資産をもたずにマッチングをしているだけというところで、急激に世界中で広がってい

くというのが現状になります。

日常に近いところでは、カーシェアリングとか、レンタルサービスとかB to Cのシェアリングというのが、所有から共有へと、利用者からすれば、誰が提供してるのかというのは関係ないので、皆さんの生活にも身近になっていると思うんですけども、C to Cとか、n対nというところが最も中心となってます。アメリカでは、On-demand economyとか、ギグ・エコノミーとか、いろんな言われ方をして、既にシェアというのは、浸透し次のフェーズに写っている状態にあります。

背景としては、ソーシャルメディアとか実名に近いコミュニティが実現し、それによって匿名性が大分排除されて浸透してC 2 Cでだいぶマッチングしやくすなってます。後はスマートフォンの普及で、パソコンを開かなくてもその場でマッチングするという環境ができたというのがベースとしてあります。

これから本当に、いろんなシェアサービスが日本でもあるというところは、ぜひ知ってもらいたいなと思ってるんですけども、空間一つとったとしても宿泊だけではなくて、駐車場のシェアリングから空き店舗または店の1日定休日の日だけポップアップストアという形で貸し出したり、会議室に特化したシェアリングというのがあったりします。本当に空間シェアだけでも何種類もサービスの形があります、もののシェアだったら、(KIITOに)minneさんもありますが、フリーマーケットだったり、最近広がってるのが、ファッション分野のシェアリング、高級バッグのシェアリング、で、Lexusさんというところは、すごい勢いで伸びていますし、一人で幾つも高級バッグをもってる方もいらっしゃれば、それを貸し出しをして、月5千円とか稼いだりする人もいらっしゃいます。移動に関しても、Uberだけでなく、Nottecoという長距離のコストシェア型のライドシェアというのが地方の田舎のほうで自治体との提携が発表されたりとか、個人が個人に貸し出すというカーシェアリングが世界でもいろんな形で、移動手段も広がってます。一番伸びてるのが、スキルの分野、クラウドソーシングだけでなく、料理を教えたり、子育てもシェアする。あき時間シェアリン

グ、後は、ペット預かりますとか、いろんな分野でやっています。後お金のシェアはのちほど説明します。

社会に与える大きな影響としましては、これ数年前、3、4年前にプライスウオーターが発表したデータなんですけれども、2025年に30兆円以上のマーケットになるというふうに言われています。これ実は、欧米の数字だけで、中国とかアジアとか入ってないですし、3、4年前の数字なので既に余裕で超えていて、EUだけでもこれから4、50兆円ぐらいはなりますし、去年中国は40兆円を超えたと言われていまして、多分世界的にみれば2025年だったら数百兆円規模になってくると思います。

それから、ここ本当に神戸にも関係するんじゃないかなと思うんですけれども、実は去年の4月、熊本の復興支援の取り組みとしてシェアサービスを各地に呼びかけをして、いろんな取り組みというのをやっています。例えばボランティアに行くときに、さっきの長距離ライドシェアと一緒に相乗りしてボランティアに行きましょうという形でライドシェアをしたり、東北から支援を受けた恩返しとしてライドシェアして、熊本までいった方もいらっしゃいますし、後キャンピングカーを現地に届けようということで、カーシェアリングですけれども現地に50台ぐらい届けました。後は、民泊、Airbnbのようなサービスを無償で提供するという形とか。本当にいろんな形で、クラウドファンディングもそうですけれども、緊急時にシェアサービスというのが、ITを活用して、直接マッチングをする。中央に、熊本県庁とかに物を送ったり、ボランティアしますよというような、中央で管理をしていると、情報がそこで混雑してしまって、配分できないんです。C to Cだと、個人の意思で個人がボランティアしたいとか宿泊したいとか直接相手に送るので管理コストゼロということが実現できるというところで、シェアサービスのベースが世の中に広がっていくと、緊急時いざというときに、無償でそれをプラットフォーム化するというと、一瞬にしてライドシェアだったり、宿泊のシェアだったりというのは提供できると、海外だったらこれがどんどん進んでいるんですけれども、日本はまだシェアサービスができていないので、イン

パクトは与えてないという状況があります。

じゃ、シェアリングエコノミーにどんな役割があるのかということなんですが、3つ大きく政府が掲げているポイントと重なるところがあります。1つが1億総活躍・働き方改革、2つ目が訪日インバウンド、3つ目が地方創生。

働き方に関しては、これまでは企業の中に従業員がいて、企業が情報を守って、当事者を守るためにサービス、安全性を高く提供してきたと。特別に権利や許可を得て、飲食店だったり、旅館だったり、いろんなサービスを企業が企業のブランドでサービスを提供してきた。それがシェアサービスになると、企業というブランドがなくなって、個人の信頼、個人の倫理、個人の責任で直接マッチングすると。そうすると、週5日8時間働く働き方から、あいてる時間だけ働くこともできるようになりますし、地方で働くということが出来る。障害をもった方だったり、主婦の方で家で週1回だけ仕事をする方だったりするが、運転できるとか、買い物できるとか、掃除ができるとか、そういった方々がどこでもいつでもITを活用して仕事ができるようになる。その評価は、時給だったり本人確認だったりしっかりしたサービスをしてればしてるほど、個人の方に信頼が蓄積されて、口コミでこうした分野に広がっていく。そういう本当に働き方ががらっと変わってくることになります。今現在でも、エニタイムズのサービスで、60代以上の方が10万円稼いでいるとか、駐車場、このあたりやったら野球場の近くとか、イベント会場の近くというのは、駐車場が足りないの、そういうときに近くの駐車場を貸し出すとか。後は週に1回、繁華街で定休日のときだけ軒先でお店をやってみようと、貸し出すとか、そういうふうにして月5万、10万稼ぐ人たちは、何十万人と増えてきています。例えば、クラウドソーシングで稼げる人というのは、トップクラスだと1千万だって稼げるんですけども、平均すると大体月5万から10万、個人からして月5万、10万を手軽に稼げるというのは、大きなインパクトを起こすんじゃないかなと思ひまして、しかもそれが遊休資産だったり、あいてる時間だったり、自分の得意なことを好きな時間に展開する、それだけで月5万、10

万稼げるっていうのは非常に兼業する働き方にとってみればいいんじゃないかなという気がします。農家さんだったり、学生さんだったり。

そうなるちょっと課題も出てくるんですけど、フリーランス化が進むので、社会保障とか安定性をどうするのかという問題が出てきますけど、ただ個人としては選択肢が非常にふえて未来を選べるそういう社会になってくるんじゃないかなと思います。海外だったらUberとか、すごい魅力というか憧れや希望の一つとなっていて、大体そういう人たちは、プロのカメラマンを目指していたりとか女優とか俳優とかアーティストやったり、そういう方々が短時間で稼げる状態をつくるという、そのためにAirbnbとかUberを活用するという生き方をされています。そういう生活をしてくると、都心で働く必要がだんだんなくなってくるので、自分たちの好きな場所で好きな人と低コストで仕事をしっかりとシェアで稼いでいく、そういう人たちが出てくるんじゃないかなというふうに思います。

じゃ、インバウンドに関しては、これは言わずもがなですけど、今年観光客の10%がAirbnbを使っています。タビカっていうこちら東京の近辺だと、農家さんが農業体験という形で家族連れの方々を5人から10人未満ぐらいずつ集めて、一緒に稲刈りをしたりとか野菜を刈ったりとかして、それを一緒にバーベキューをしたりと、冬だったら餅つきをして楽しんだりとか、夏だったら流しそうめんをすとか、そういうことをして農家さんで50万とか60万稼いでいる方もいらっしゃいます。

後、お寺ステイというサービスも、これは最近立ち上がったサービスですけど、お寺で宿泊をしたり、ヨガをしたり、そういうお寺のあいてる時間を活用して、シェアサービスをどんどんどんどんふやしていく、そういうお寺に特化したシェアサービスも大好評で稼いでいらっしゃる方もあります。

地方創生に関しては、一つシェアエコ協会も力を入れているコンセプトがあるんですけども、シェアリングシティ、シェアによるまちづくりというのを公民連携でやっていきたいと思いますという提案を昨年11月から広げていっています。政府もこれを支

援していただいているんですけれども、少子高齢化で税金頼みの仕組みでなくて、共助の仕組みをシェアサービスとITサービスを活用して自分たちのまちは自分たちがつくとそういう仕組みを導入していきましょうというコンセプトを掲げています。それをシェアリングシティ構想と呼んでまして、自治体の課題解決を地域の方々と一緒にシェアサービスのプラットフォームを活用して「共助」を実現していくというコンセプトになっております。例えば、近くの関西でしたら、生駒市とAsMamaという子育てサービスが協定を結んでいるんですけれども、AsMamaは子育てのシェアリングをするサービスで、同じ学校に通っている人をネット上で登録をして、一緒に送り迎えしてもらったりとか、体調くずしたら預かってもらって、その人の家庭で面倒見てもらったりとか、ちょっとした助け合いというものを1時間500円から、やってもいいよというママサポーターの仕組みをつかって、展開されています。やっぱり保育園の数が足りないとか、時間外対応できないとか、週末やってないとか、そういうところで公的サービスが厳しいというところに対して、こういうサービスをどんどん役所のほうが紹介しているというという連携をとられています。

昨年11月に、5つの自治体、島原市、佐賀県の多久市、浜松市、千葉市、秋田県の湯沢市、この5つの自治体がシェアリングエコノミー協会と組んでもらって、シェアリングシティ宣言というのをさせていただいております。この自治体で今シェアサービスを今後導入するということになってまして、ぜひ神戸市もご一緒できればなと思っています。

シェアリングシティに関しては、実は6年前に世界中でスタートして、どんどん広がっております。一番推進しているのが、隣のソウルです。ソウル市長が、元市民活動家だったんですけれども、シェアサービスがソウル市にとって環境問題の解決、渋滞の解決、隣近所誰が住んでるかわからないという、その人付き合いがなくなってきたことの解決に至るんじゃないかというので、市長主導で行政主導型でシェアリングシティ宣言をされて、様々なシェアサービスを展開されています。



後はアムステルダムのボトムアップ型で地元のNPOとか活動家とかからシェアサービスは自分たちの未来をつくるんじゃないかというところで、頻繁に民泊などワークショップをしたり、地域活動されたりして、結果アムステルダム市の80%がシェアサービスを推進していきたいというアンケート結果が出るころまで支持が集まり、アムステルダム市がそれを見て、シェアリングシティ宣言をし、正式にAirbnbと提携したり税金回収の仕組みをITで実現したなど進んでいます。

後、環境省のワーキンググループに入ってるんですけども、シェアリングエコノミーとエコが非常にシナジー効果があるんじゃないかというところで、いろいろと話をしまして、例えば、シェアエコのサービスを使っている人たちは、環境にいいことを取り組んでいきたいとか、サービス提供した利用者間で信頼に基づいて活動しているところに結びつきが強くなるというのがありました。という形で、シェア自体が、直接的にCO<sub>2</sub>を削減するとかって、ライドシェアとかシェアハウスとかといったところがあるんですけど、人間関係をつくったり、今後のライフスタイルとして環境を意識した人たちがシェアサービスを使ってるところが強くデータとして出ています。

後、長距離ライドシェアの場合でしたら、長距離、例えば大阪ー東京をnottecoっていうサービスを活用すると、コストシェアはタクシーと競合しない値段ですし、業ではないので合法的にライドシェアができるようになってまして、大体東京ー大阪間で、一人3-4千円ぐらいで移動できるんですけども、単身赴任の方とか定期的に関西と東京へいったりきたりする人たちがあいてる席をシェアして、若い学生さんとか、ライブに行く若者とか、そういった方々と相乗りして乗っていくサービスを使っています。あとはカーシェアリングが環境に良かったりとかいろんな点でクロスできるかと思っています。

最後、プラットフォームの責任・安全対策として、これは課題にもなってきたんですけど、それに対して昨年内閣官房のシェアリングエコノミー検討会議という

ところで、協会からも代表理事が2人入って有識者と中間報告という形でガイドラインをつくってたんですけども、本人確認と評価システムとか保険の加入、後、納税に対する支援みたいなところの取りまとめというのを発表しまして、ことしの4月から認証制度という形でプラットフォームが一定の責任をもつという活動を自主的ルールで実行していくという取り組みもしています。

後は日本の場合は、本当にさまざまな規制や法律があって、やりたいことができなかったりするんですけども、今自民党のIT戦略特命委員会というのがあるんですけども、ここが支援していただいている、彼らのスタンスは、白黒つけるんじゃないで、法律に関してはグレーでもやってしまう、グレーでやってる人たちがイノベーションを起こして、結果として必要性が生まれて、努力している人たちがユーザーの支持を得て、その結果安全性に対する対策というものを法律で規制するんじゃないで、自主的ルールでよりよい世界ができてくると、その後法律が変わるっていう循環をしていかないと、日本は白しかないんで、ユーザーもできないし、ユーザーができないと法律も変わっていかないとという循環で、どんどんどんどん海外のほうがイノベーションを起こして、最終的には海外のサービスが日本に普及するっていう順番になっています。もし神戸市がシェアサービスを理解してくれるんだったら、行政から言いづらいかもしれないんですけど、グレーゾーンで展開する人たちを、ぜひ応援してあげてほしいなど。

後は、ブロックチェーンとかで本人確認が必要になったりとか、後は民泊新法も非常に残念な新法ができ上がったんですけども、先ほどそういう既存業界とシェアサービスでばたばたするんじゃないで、一体誰が消費者のことを考えて守っていくのだろうというところを考えていかないといけないと思います。

一応概要としては以上なんですけれども、ちょっと神戸市がシェアサービスをやるんだったらというところで少しだけお話ししたいと思います。

2020ビジョンだったと思うんですけども、それをもとにシェアリングシティ神

戸というのを目指すんだったらということで、簡単にまとめています。

僕は、渋谷区と神戸市が非常に近いんじゃないかなと思ひまして、今渋谷区の長谷部区長といろいろと話をしてるんですけども、シェアリングシティ渋谷というのをつくろうと話をしています。ちょうど渋谷区がことし基本構想を取りまとめたんですけど、このときにターゲットは若者、渋谷はやっぱり若者が集まってるまちで、その人たちが活躍できるまちをつくりたいと。基本構想の中で、「違いを力に変えるまち」というコピーをつくって、ダイバーシティアンドインクルージョンというところを中心において、多様な人たちが活躍できるまちにするということを渋谷区は目指しています。なのでターゲットは近いですし今回先立つような福祉とか、後LGBTとか外国人ですとかそういった方々がいっしょくたになって生活するまちを目指すというのは非常にいいんじゃないかな、近いんじゃないかなと思っています。

神戸市で空き家の問題が大きいという話を聞いていたので、空き家対策で確かに古民家とか古い家とかあると思うんですけども、今一番大きいのは、団地の問題じゃないかなと思っています。団地でなかなかちょっと都心から離れた場所で高度成長のときにたくさんの団地をつくってきたところに対して、どうやって魅力づけをするのかということに関して、東京都のほうでは、ホシノタニ団地というイノベーションを起こされたブルースタジオというところなんですけれども、そこが昨年グッドデザイン賞を取られています、この団地に農業できる土地をつくったりとか、ドッグランをつくったりとか、後、お店ができる場所をつくったりとか、コミュニティーをつくってるんですけど、その団地の人だけが使えるんじゃなくって、まちの人皆が使えるような公園みたいな形にしている、開かれた本当に自分たちが住みやすい地域という形でリノベーションされて、ここの入居率というのはもう90%を超えて、大人気になっていると聞いてます。これがその写真なんですけど、これがマンションの中庭なんですけども、こういう自分たちで食べるものをつくって、みんなで露天を開いて、ペットはドッグランで遊んで、子供たちとか、シルバー世代の方も一緒に楽しんでもと。

住んでる人だけじゃなくて、地域の人たちが出入りする、そういうリノベーションとか大きい規模での空き家対策というのが必要なんじゃないかなと思ってます。彼らが仕掛けているのが、リノベーションスクールということをやってみて、私もこの前熱海市でリノベーションスクール、サブリーダーをさせてもらったんですけど、このリノベーションで、さっきおっしゃってましたけど、物件のオーナーさんと物件を利用したい人と、そこで投資があると、こういう形でイノベーションをして、新しい価値がつかれる。シェアサービス、そこでコワーキングとかシェアハウスをつくるとか、お店をつくるとかいろいろやるんですけども、シェアリングエコノミーとかシェアが一番活躍するポイントっていうのは、人口集中とか、需要がたくさんあるところに対して、供給が足りない、そういうときにシェアをすると非常に効果が出やすいんですけど、需要がないところにシェアサービスとかシェアリング持ち込んでも、誰も使わないんですね。だから魅力がない宿とか、魅力がない地域、団地にシェアサービスとかシェアリングを導入したとして、結局使われないんです。だから1回ちゃんとそういうときを経て、リノベーションをして、魅力をつくって、それでシェアすると、魅力づくりというのが大事なんですけど、そのときにリノベーションというのは重要になってくるかなと思っています。

例えばシェアサービスでクラウドファンディングのサービスがあるんですけども、クラウドリアリティという会社が不動産に特化してまして、クラウドファンドを立ち上げています。投資家から特別の出資者を集めて、リノベーションをして、リターンは収益という形で、大体3%から7%ぐらいの利回りで提供する。例えば、神戸市でこのエリアを何とかしたいというときに、神戸市がお金を出すんじゃなくて、使いたい人たちを集めてきて、そこのお金は個人から集めてくるというやり方ができるといいんじゃないかなと思います。

後は、東京のほうでソーシャルアパートメントというマンション丸々シェアハウスにしたり、本当に共有スペースがラグジュアリーなシェアハウス、これは彼らはソ

ーシャルアパートメントって呼んでますけど、あるんですが、このぐらいの規模感で何十人とか100人とか住めるようなリノベーションすると、若い人たちにとっては雰囲気もできるし、住みたいなども、もちろんなっていくんじゃないかなと思います。

以上です。(拍手)

○齊木議長 ありがとうございます。

それでは、席のほうにお戻りください。

ありがとうございます。大変刺激的な縦糸だったと思います。

時間が実は5時半までということで事務局から聞いておまして、少しでもということで、少し伸ばして使わせていただければと思います。

先ほど、創造会議で進めてきた7つのテーマ、そこに幾つかの縦糸を、先ほど縦糸が3本目が増えたというふうに思いますが、今のお話も合わせて、やはり大きくは、所有の価値から活用の価値に移行していると、とにかく使いこなして今の近くの財産を有効に展開しようという提案や規制緩和に対する挑戦とのお話にもありました。それから何よりもこれまで気がつかなかった多様な価値を次々に引き出されたこともよくわかりました。

経済の好循環やそれと質の向上、気づいてなかったことが実は質が高かったということも今のお話の中でありましたけど、私のほうから一つだけお伺いしたいことがあります。今経済の好循環という視点からいくと、ここで利用されてなかったものが活用されるということでの好循環はあるんですが、言ってみれば、そのものが使われていくうちに、消化されますよね。だんだんその使いこなされますとある状況で消えてくわけですね。新しい価値創造のための次の展開へこのシェアリングの話がうまく循環していくんでしょうか。その辺が一番気になります。例えば都市基盤だったり、公共的な何かとか、もっと基盤をつくらないといけないという問題もあります。

きょうこのネットワークというものにこのシェアリングのシステムがどのような役割を担って、より価値ある未来を引き出せるんでしょうか。

○佐別当事務局長　　そうですね。さっき渋谷の例を持ち出したんですけど、渋谷は若者が増えているんです。増えているんですけど問題はたくさん増えていて、一番の問題は、ジェントリフィケーションと言われているその地域の地価が上がってしまって、若い人たちが住めなくなっている。で、若者が逆に流出しちゃってるんですけども、こうなったとき渋谷区がやろうとしているものが、市が持ってる場所を若い人たちに無償で提供する。要は歩行者天国をつくったり、店ができるような公園をつくらせてあげたり、そういった市がたくさん資産をもっているんで、そういう場所をどんどんどんどん開放して行ってあげて、今度若い人たちからすると、さっきの社会問題を解決したいという話だったりとか、クリエイティブな人がどんどん増えてきてるので、シェアっていうよりは、DIYとか自分でクリエイターとして、商品とかサービスとかをつくっていく。そういうのを応援することなんじゃないかなと思います。

○齊木議長　　ということは、個々だけで展開するのではなくて行政とか新しい公共のあり方がそこにジョイントして、その関係が満たされているということですね。

まさにこの創造会議が今議論しているのもそこだと思いますよね。そうなりますと、行政も変わらなきゃいけないし、教育も変わらなければいけないし、そして、今まで展開された方々の価値観も変えなければいけないと、ということですね。

時間もないんですが、メンバーの中でぜひ発言をしたい方。

はい、どうぞ。

○矢崎委員　　ありがとうございます。

すごく勇気づけられまして、きのう、先ほど申し上げたG1サミットの中で、AIとかビッグデータとかいろんなキーワードがある中で、シェアリングエコノミーが1つの確固たる地位を持ってました。国の現役の政治家の人たちとか、いろんな役員の方々は完全に前のめりですけど、なのにいろんな規制はやっぱり何としたりって、まだ特例という話になってるんだと思うんで、そこらへんちょっとなかなかやるせない。でもやっぱり一番変わらないといけないのは、行政だと。そこはぐっと前のめりにな

っていただいたら、やっぱりそこは変わっていくんじゃないかなと思ってるんですが、人口減少対策だけじゃなくって、やっぱり経済も回していかなければいけないという中でですね、神戸市がシェアリングシティというものに手をあげていただきたいですが、もっと突っ込んで、トップダウン、私たちに一切合切何の既得の権益も、しがらみも、特区も、何も言わせませんので自由にどうぞって、もし市長が宣言していただいたとしたら、これはもう私の予感、悶々とそうやって思っている日本の若い起業家がいっぱいいるんじゃないかと思うんですが、そういう人たちが、いっぱい神戸で起業してくれる。ここから何か始めて、神戸でスタートした日本らしいシェアリングの新しいモデルがどんどん生まれていくような気がしているんですが、そのあたりの意見いただきたいです。

○佐別当事務局長　まさに僕、ロビーイングをかなりしてるんです。政治家とか官僚の人たちと話をしている、何でもできるオールマイティな特区をつくろうという議論は既にありまして、それをやってほしいというのは、自民党の例えば平将明先生、地方創生の副大臣になりましたけれど、が推進されているんですけど、その感覚でいうと神戸市でそれをやるのは難しいと思います。

去年、福岡でシェアリングシティ福岡というイベントをやって、人数集めて何十社かシェアサービスも呼んできて、福岡市長も登壇していただいて、議会も、役所の方々の努力で調整したんですけど、やっぱりその縦割りなんですね、役所も。市長がやるって言っても、各担当課の人たちが現場調整しようとするのが難しかったり、旅館業界だったり、タクシー業界だったり、子育て、保育業界だったり、そういうところを大きな都市ってのはやっぱり説得ができなくて、今、福岡市長とか横須賀の市長とかすごく頑張ってるんですけど、シェアリングエコノミーに関しては、やりたいて言っても議会が通らない。世論が通用しない状況になっちゃっていて、それでもやってくれるならすごいこと。

○矢崎委員　ですね。

○矢崎委員　　今市のいろんな方がここに、神戸市長もいらっしやってますけど、それぐらい福岡の市長はやりたい放題やっていますが、そんな人たちでも回せないことを皆さんが率先してやられたら、こういうものは世の中でもものすごいことですよね。

市長、ぜひお願いします。

○齊木議長　　後で市長にもご挨拶いただきます。山下委員、どうぞ。

○山下委員　　先ほどまさに、おっしゃったような下町の、ある特定の若い子には人気のあるエリアなのですが、そこ、その空間をこういう形のシェアリングエコノミーにしたいなと思っていますが、それにはやはりリアルな場所でまず集まって、そのまちの五感といいますか、そこにいる人であったりとか、どういうふうな生活がされているのか、食べ物だったりを感じてもらいつつ、なおかつその場所を活用してもらうということをやっているんですが、そのシェアリングエコノミーという中で、例えば、その現場、リアルな場所でその経験を感じてそれを蓄積しつつ、バーチャルな場所でこういったマッチングしているというのがあるのですか。

○佐別当事務局長　　そうですね、まだ実験を秋田県の五城目町というところで、シェアビレッジっていうのがあるんですけど、それは古民家をオーナーさんがもう運営できないので、地元の若者達に貸し出しをして、自由にゲストハウスにしていよいよという形で提案をしていたんですけども、そこで彼らがやったのは、クラウドファンディング。クラウドファンディングで、1千万円近く集めたんですけども、クラウドファンディングでお金を出す人たちに対して、仮想の村民という形で、千人の村民をつくり出すというコンセプトだけで、村民は、5千円だとか1万円を払うと、ゲストハウスの宿泊券をもらえるというんですけども、同時に税金を払わなきゃいけない。毎年納税をしなければいけないんですけど、納税もまたチケットをもらえるんですけど、そういう形で仮想のITを使ったコミュニティを作って資金調達をして、リアルに生活するようなすごいことをしています。

○齊木議長　　ありがとうございます。



福岡委員、お願いします。

○福岡委員

Airbnbのホストとして有名な友人がいて、彼からAirbnbのコンセプトを聞いてとても感銘を受けたんですね。最も大切なのはビジネスに非ず出会いだと。私も実際海外でAirbnbを使った際オーナーさんにとってもお世話になったんですね。現地のことを教えてもらって、プラっといったぐらいでは触れられない、本当にコアなところまで、場合によっては友人まで紹介してもらえる。こんなにすばらしい体験はないなど。

だから出会いというものを広める。何かこうコンセプトがあって、本当にAirbnb社本体は本当にそれを大事にやっておられる。アメリカのアートフェスティバルでバーニングマンというのがあって、メンバーが全員バーナーであるということにも感銘を受けたし頷けました。そのコンセプトをどうみんなで理解するかというのは重要じゃないか。

ただ日本の場合はですね、土地や部屋が余っていて、これを何とかしたいんやというホストも結構多かったです。これはAirbnbの話になってしまうが、“日本” Airbnb社は、受け入れホスト数をふやすために、そういった事情を結構わかって受け入れているような気がするんですね。

コンセプト重視で、そこを理解して（判断して）、やっていけばいいんじゃないかと思うのですが、そこどうお考えかをお聞きしたいです。

デザイン都市神戸は都市デザインをやるんだ!? ビッグコンセプトを紡ぐんだ!?（ほんまに?）が、ずっと僕これに参画したときからの問いなんですが、その答えに通じるヒントになるような気がして。

○佐別当事務局長　まず、Airbnbのカルチャーと、よく比較される例えばUberのカルチャーと全然違うと思うんです。ウーバーはどちらかという労働者を搾取していて、働く場を奪っていて訴訟されている世界で禁止されている取り組みです。一方でAirbnbは、一定程度商業利用する人たちに対しては、世界的に規制が始まっているの

で、旅館業とバッティングしないというふうになってるんですね。ただ家主に滞在型に関しては、例えばパリなんか制限なしにしていたりとか、その地域に住宅専用地域であったとしても、その地域の周辺の飲食店とか、いろんな場所で需要が生まれるので、観光にプラスになるというので、どんどん広がっていく。

今Airbnbは、ニューヨーク、ポートランド、サンフランシスコに関しては、1ホーム1リストという形で、1人1件しか運用しちゃだめというコンセプトを発信をして、そのかわり自由にやらしてくださいと行政と連携してやってるんですね。この3地域というのは本当に世界のシェアリングエコノミーの最先端の地域だと思ひまして、で、神戸も参考にするんだったら、この3地域をぜひ参考にされたらと思ひますし、この中でもやっぱり僕はポートランド、クリエイティブシティといわれてるんですけども、そういうその公園とか道路とそういうところでいろんな人がパーティーできたりお店をひらけたり、また自分たちの住むまちは、自分たちでつくって、道路すら自分たちでつくる、UberとAirbnbをトータルにやるかどうかというのは実験的に、例えば4週間とかサービスを市民が利用して、それを賛成反対を投票して導入を決める。そういう形でどんどん市民の人たちが参画されているんですけど、そういうクリエイティブシティを目指すというのがあっていいんじゃないかなと思ひます。

○福岡委員　ありがとうございます。

もうパーフェクトなエールですね。東遊園地の芝生化は、ニューヨークのブライアントパークなんかも参考にして提案をしました。ポートランドも実際行って見て思ったのは、住民一人一人がにこう生きたいっていうことを思い描き、そしてその共有が街中にあるなど。それをみんなでつくろうじゃないかという思いこそが心地よいまちを形成しているような気がしました。ありがとうございました。

○齊木議長　時間がもう本当になくなりました。

一つ今日お話を伺って気づいたんですが、さまざまな、シェアリング実験というのが、展開されている。今後そのシェアリングから得られた失敗も成功も含めて、その

状況をどう共有できるか、成功するばかりじゃないと思うんですね。やはり幾つか壁があって、規制緩和というのを超えて、領域が違うところをどう融合していくかも恐らく大きな壁でしょうし、展開する中でどうしても壁にぶち当たるだけじゃなくて、壁が消えたときに、次のことに移行しなければいけない場合もある。

今この創造都市の創造会議では7つの実験がまさに進行中ですけども、きょうお話を伺ったことも含めて、これから一つの縦糸を何本かつくっていきたいと思います。

ここで、市長がおいでですので、ご挨拶とお話をいただきたいと思います。

お願いします。

○久元市長　ありがとうございます。

今日は5時半終了という予定で、今5時29分、しゃべる時間がないかもしれませんが、今日はデザイン都市・創造会議の今年度最後の会議ですね。今年度が終わるわけですが、本当に今年コメントいろいろありがとうございました。私が感じていることをちょっと時間超過するかもしれませんが、少しお話をさせていただきますと、各会議のメンバーのみなさんからいろんなクリエイティブなアイデアを出していただいたり、また皆さんが出していただいたことをもとに会議でいろんな議論が行われたと思うんですね。その中にはすばらしいアイデアが含まれてる。これをどう実現にもっていくのかということが我々の、残念ながら今の段階では、まだこの道筋がついていないんです。

私はね、せっかくこの会議で議論していただいたというのは、やっぱりクリエイティブな発想に立ってやっ払いこうというようなところに我々も立たないといけないという気がします。そのためには、行政だけでできることではないかもしれないし、民間の皆さんやいろんな共感をもってこれを一緒にやっ払いこうという人たちを、仲間をつくらないといけないところが大事ですが、しかし行政の中でも、これをどう伝えてね、ここで議論されてることが1万4,500人の職員の中の何人が知ってるかということですよ。

そういう発想から新年度は、せっかく出していただいたアイデアをとにかく実現にもっていくためには、まず我々市役所の中で何をしたらいいのかということを考えて、企画調整局を中心に、各局とこれをつないで、そしてとにかく実験をしてみようと。私はこのデザイン都市・創造会議で教わったのは、やっぱりとにかく今の神戸を変えていくためにはうまくいくかどうかわからないけれども実験をしていこうという発想だったと思うんですね。

東遊園地も今実験中です。もう今は見るも無残な姿になってるんですよ。少し回復したんですかね。ただこれは、失敗したわけではないんです。成功したわけでもないんです。芝生を管理してたくさんの人がきました。それでルミナリエと1.17のつどいでたくさんの人が座ったり、これを踏んで、これは想定されてたんです。それで今もう根から芝生が生えてくるかもしれないという光明が見えてるんですね。これ実験の成果だと思うんですよ。うまくいくかどうかわからない。そしてもう少し何か手を加えたら、また5月か6月にあの芝生はよみがえるかもしれない。素晴らしいことじゃないですかね。そういう発想で幾つかの実験をしています。ほかにも。例えば、三宮中央通りのパークレットの実験もそうです。冬寒いですから、あんまり人もおりませんが、あれも一つの実験ですね。

それからノエビアスタジアムで、ハイブリッド芝の実験をやっています。これももしうまくいったらノエビアスタジアム、日本で初めてハイブリッド芝の、それでサッカーもラグビー行われる。これも実験です。

それから、海岸線ですね。これ2,300億円かけてます。そのときは13万5,000人乗ると思ってつくったんですけど、今4万2,000人しか乗ってないから、空気を運んでるようなものですよ。空気を運んでるようなものに、どうしたらいいのかっていうのは、これも実験ですけど、新年度から、7月からになると思うんですけど、中学生以下はただで乗ってもらったらどうでしょうか。そうしたらまちがどう変わるでしょうかということをやります。タダにしても乗ってくれないんでしょうか、乗ってくれる

でしょうか、これも実験なんです。

こんな実験をクリエイティブでないかもしれませんが、何かいろいろやってみて、そこから何かクリエイティブな都市像が見えてくるかもしれない。そして、横串としてやっぱり神戸は、いろんな面で、横串がデザインという、デザイン創造都市という横串があるという発想を使って、商品開発とか暮らしの中のクリエイティビティあるいはまちのたたずまいとか、景観ということ、とにかくクリエイティブなまちということを目指して変えていこうという意思で我々がどんなことができるか。そんなことを新年度は改めてご相談をさせていただきながら、とにかく神戸のまちをクリエイティブな都市にしていくことができるように変えていければと思います。

それから本当に途中から聞かせていただきましたけれども、シェアリングエコノミー、前から関心をもっていた分野でした。これもね、そう簡単ではないと思いますが、きょうせっかくお話をいただきましたから、このシェアリングエコノミーという観点から神戸市が考えている課題、いろんな課題がありますが、これを解決できるようなことがないかと。お話がありましたのが、空き家の問題だとか公共交通の問題だとかあるいは住まいの問題とか、里山で暮らしていくというようなこととか。もちろん民泊もですね、こういうような観点から、どんな形で行政がすることができるか、特区ということからいうと神戸市は特区を申請してる数が大変少ないです。もっと特区を活用して、我々ができることをブレイクスルーしていく。その前提として我々が何をやりたいのかということが先になかったら、どんな規制が邪魔になるのかということが見えてきませんから、まず我々が何をしたいかということを見ながら、新年度また新しいチャレンジをしていこうと思います。

ありがとうございました。(拍手)

○齊木議長　　ありがとうございました。

市長から、来年度の方向性をお話いただきましたが、進行役として少しまとめさせていただきたいと思います。

1期目は、創造会議では何かアイデアはないかということで進めてまいりました。その後、出てきたのが、まさに芝生とかの実験をして、そこから考えようという動きが変化でした。言ってみれば、1期目は実践でした。

ただ、もうその段階はかなり過ぎて、今最も必要なのが、今市長からも話がありましたけど、神戸の条件、クリエイティブ、創造性ですね。これを次のテーマにしなければいけないというお話を今いただきました。やはり神戸のもっている新しい価値創造へのステップに、実は私達はもう入ってるということを今確認させて頂いたと思います。

いろいろ言ってみれば、こういう問題がある、ああいう問題がある、そういった横系ばかりありましたけど、そこに何本もの縦系が今入りはじめた。きょうメディアも縦系に入っていましたし、シェアリングエコノミーも新しい縦系の可能性を、神戸が使えるかどうかはまだわかりませんが、その縦系の一つに今気づきました。

ということで、私たちの次のステップとしては、ぜひこの創造会議開催要綱の内容を変えていただきたいんですね。この創造会議というのは、デザイン都市を推進するために、市の各局が実施している施策や事業、今後の方針等について、意見とか提案をすることですが、今は完全に提案を超えて、実験をしています。その中で各部署の連携ができました。

私は実験のその後を考えるならば、具体的に意見や提案を求めるということも含めて、神戸の新しい価値を創造することを目的として、創造会議を次のステップに展開できればと思います。

それを考えますと、やはり一番大事なことは、誰がやるのか、どこでやるのか、そしてそれをどのようにオープンにできるか、そしてそれを共有するか、それは神戸だけのためではなくて、実はアジアや、世界の人たちも私たちの実験の成果を待っていると思います。

ということで、4月からこのメンバーで次の一步に踏み出したいと思います。

そうしますと、今まだまだ縦糸が足りません。横糸もまだ足りないんです。今まで出した横糸がぷっつんと切れたり、幾つかの横糸は2つに分かれて細い糸になっております。そこにしっかり縦糸と横糸を組んで、神戸、BE KOBEを包む布を創造会議でつくっていくべきだと思っています。

ということで新しいステージになります。市長が来年もということでお言葉をいただきましたので、このメンバーでさらに実験的な第一歩を目指していきたいと思えます。

ということで、来年度4月からもよろしくお願いします。

ありがとうございました。(拍手)

○事務局 齊木議長ありがとうございました。

非常に今回も意義ある議論ができたと思います。また来年度について、いろんな取り組みを続けたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

今日はお忙しいところありがとうございました。

これをもって、第3回デザイン都市創造会議は終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。(拍手)

(終わり)